

# 多高通信

第153号 平成30年4月26日発行



さとく ゆたかに たくましく  
宮城県多賀城高等学校

## 祝 43回生入学おめでとう!!



4月10日、例年よりも開花が早い満開の桜に見守られながら、平成30年度入学式が挙行され、265名の新入生が多賀城高校に入学しました。入学式では新入生代表の及川美咲さん(田子中出身)が「新たな道への第一歩を踏み出そうとしている私たちには、多くの期待と不安があります。これから経験する新たな出来事に、迷い、悩むこともあるかと思いますが、多賀城高校生として「さとく・ゆたかに・たくましく」、仲間とともに充実した高校生活を送ることを誓います」との宣誓を行いました。

翌10日には対面式・部活動紹介が行われ、各部の趣向を凝らした紹介や、生徒会執行部のスピーチ等が行われました。また、ホールルームにおける学級開きでは初々しく自己紹介する姿が見られました。



新入生代表の宣誓

来月2日には秋保リゾート森林スポーツ公園での校外オリエンテーションが行われます。クラスの親睦を深め、早く学校に慣れ、多高生として学習に部活動にどんどん力を注いでもらいたいと思います。

## Science Edge 2018



3月23日、24日の2日間、茨城県つくば市のつくば国際会議場で「つくば Science Edge 2018」が開催されました。開催9回目を迎えるこの科学コンテストは全国規模で行われるイベントで、国内外から82校

227チームが参加し、日頃の研究成果をポスターセッション等で発表し合いました。本校からは科学部と災害科学科の生徒12名が参加しました。

研究発表の他に、大学や研究機関が主催するワークショップにも参加し、将来の日本を支える科学者としての素養を育みました。

■科学部部长 山本涼平 (2年5組 高崎中出身)

発表する側からみると、これまで県内で参加した発表会とは異なり、聴講する方が研究内容に鋭く切り込んでくることも多々ありました。この質疑応答を通して、自分達の取り組んできた研究



は、今後より一層深く掘り下げることができるとあると再認識することができました。また、自律型AIロボットの研究を中一から4年間追いつけてきた研究や、世界最強の動物といわれるクマムシの乾眠打破に関する研究など、刺激を受けた発表が多くありました。

今回の経験を通して、他者の研究発表にどんどん質問したいという思いと、自分を磨き真理を探究したいという思いを強く抱きました。

■佐瀬 翼(2年7組 多賀城中出身)

周囲で発表している他校の姿を見て圧倒されました。しかし、自分たちがこれまで取り組んできた内容をしっかりと発表することができたと思います。多くの口頭発表やポスター発表を直接聞くことで、自分の中で科学に対する世界観が広がりました。また、英語で発表をしている学校が複数あり、いずれは自分も英語でプレゼンテーションのできるようになりたいと思いました。

## 徳島ダッシュ隊交流会

3月27日、徳島ダッシュ隊の皆さんが多賀城高校に訪問してください。生徒会と交流を行いました。まずは首蒲田浜に行き、七ヶ浜町の当時の被災



状況や復興状況、防潮堤の説明などを行いました。次に、イオン多賀城店を訪問し、津波の映像や都市型津波について説明を行いました。皆さんは津波の映像に、驚きを隠せない様子で、津波の脅威を実感できたようでした。「まち歩き」のあとは学校に戻り、お互いの活

動紹介とワークショップを行いました。徳島ダッシュ隊の皆さんは、本校のホームページを見て、防災交流がしたいと本校を訪れてくださいました。このように来て頂いた方々との出会いを大切に、防災・減災の大切さを全国に拡げていきたいと思ひます。



## 日本史特別講義 政宗のみた大津波

### 1611年慶長奥州地震津波

4月17日、東北大学災害科学国際研究所から蝦名裕一先生をお招きして、3年生の日本史B選択者を対象に特別講義をしていただきました。日本には多くの古文書が存在し、貴重な歴史的資料になっていることや、2011年の東日本大震災は1000年に一度の災害であるといわれているが、実際は江戸時代にもM8.4〜8.7クラスの「慶長奥州地震津波」が起きていたことなど、災害を歴史学的な見地から大変わかりやすく説明していただきました。



## アイリスホール

### IRIS Hall 落成記念行事

4月18日、本校の大講義室棟(愛称・アイリスホール)完成記念行事が行われました。愛称の「iris」は、多賀城市の市花アヤメの英語表記にフランス語

で夢を表す「eye」の頭文字「r」をかけ、その夢が大きくなるよう、大文字のRにしました。

式典では、多賀城市をはじめとして宮城県教育庁などから多数の御来賓の方々に御出席を賜りました。また、京都大学防災研究所の矢守克也教授を講師にお迎えし、記念講演をいただきました。



講演では、「高校生に期待する防災・減災の取り組み」と題して、矢守先生が高知県の須崎高校や静岡岡島の焼津高校の高校生とともに取り組んだ活動や、高知県黒潮町の佐賀中学校と取り組んだ活動の紹介の後、本校生へ期待を込めたメッセージを送ってください。災害を含め世の中の出来事が文系と理系に分かれて起きるわけではありません。人間科学(文系)、自然科学(理系)、どちらか一方を選ぶほうとするのではなく、両方に興味を持って、是非両方を追いかけてください」と締めくくりました。

■鶴喰 裕貴

(1年7組 鹿児島県出水市立高尾野中出身) 今回の矢守先生の講演を聞いて初めて知ったことがあります。一つはそれぞれの震災で人の亡くなる理由が違うということです。関東大震災では火災、阪神・淡路大震災では家屋の倒壊による圧迫、東日本大震災では津波、そして熊本地震では震災関連死と、すべて違う形で震災は人の命を奪っています。

矢守先生の特別講演



二つ目は、全国の高校生が防災・減災を目的に一生懸命活動しているということです。もしものために避難場所や避難経路を一人一人確認しているそうです。防災・減災をより進めていくためには私たち高校生が中心となって活動しなければなりません。しかし、私たちにはまだ分からないことがたくさんあります。これからしっかりと学んでいき、災害によって多くの命が奪われることの無いように高校生ができることを一生懸命やっていきたいと思ひます。